

学習者の  
皆さん！

## お国の自然災害や 災害対策はどのようなのですか？

世界各地で自然災害が増加し、

発生件数、被害者数共に規模が大きくなっています。

海外の大災害で記憶に新しいものは、ハイチ(地震/2009年)、

中国・四川(地震/2008年)、ミャンマー(サイクロン/2008年)、

インドネシア(地震・火山噴火/2006年)パキスタン・インド・アフガニスタン  
(地震/2005年)、インド他・スマトラ島沖(地震・津波/2004年)などがあります。

これらのうちハイチを除き、アジア圏です。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は

地震・津波に原発事故が重なり、被害は甚大です。

TNVNのスタッフが教室に来ている学習者に、自国の自然災害と災害対策を  
どのように受け止めているかを聞き取りました。

西からイラン、ウズベキスタン、パキスタン、インド、ベトナム、シンガポール、

フィリピン、中国(山西・瀋陽・ハルビン・北京)、ウイグル、台湾、

韓国(ソウル・済州島)、ペルー(リマ)、

ブラジル(サンパウロ)、アメリカの14カ国22名です。

生の声を紹介します。

### パキスタン／ラホール

●7年前、マグニチュード7.9の大地震(縦揺れ)があり甚大な被害がありました。津波はありませんでした。

●アラビア湾沿岸にはサイクロン(洪水を伴う)が襲来しますが内陸部までは来ません。

●ラホールでは、夏(5月～9月)すごく強い風が吹き荒れて、小石が飛んできて目が開けられません。

●災害に備えて学校で避難訓練などは実施していません。

●行政が自然災害に対して国民にPRしたり、備えたりすることは少ないです。むしろ、国内の、また国外からのテロリズムに対す

る警戒を重視しています。

### イラン

●学校で地震の時の注意を教えます。

### インド

●洪水・地震・津波などの災害後、病虫害に備えて、家の中をきれいにしています。

### ベトナム

●台風が多く、その被害も大きいですが、それに対して国として対策はとっていません。地域(市や町)も、対策はありません。家庭では、テレビやラジオで情報を知る程度です。

●多くの日本企業に勤めたが、特別な訓

練や、非常時に備えているようには思えません。

### フィリピン

●台風は6月～12月まで、しょっちゅう来ます。田舎では大雨による洪水で家が流されることが多いですが、すぐまた建てます。島によっては火山の噴火による災害があります。地震はたまにありますが大津波はあまりありません。

●学校で避難訓練などは実施していません。行政は自然災害に対する防災に力を入れていません。非常持ち出し品をバックパックに詰めて、まとめて用意などしていませんでした。

### アメリカ

●ハリケーンが9月から12月にかけて襲来します。

### ウズベキスタン

●自分が生まれてからは、地震、台風、大火事、洪水などは一度もありません。国も防災について考えていないようです。個人的にも、(自国では)防災の必要は無いと思います。

### 中国

【山西省】黄土高原(海拔700m) 砂漠地帯です。自然災害は干ばつで、植林を行っています(防災植樹祭)。しかし雨が降ると降りすぎます。

【北京】台風などは今まで経験した事がな

## お国の自然災害や 災害対策はどのようなですか？

く、小さい頃1回大雨のため家の中へ水が入り膝位までになった事があります。毎年黄砂がひどく、個人的にマスクなどで予防しています。

【中国では】防災訓練や消火器の設置は行われています。瀋陽(家庭では水・米の用意、ラジオの用意)、ハルビン(交通安全週間・年2~3回(学校での教育指導)、洪水対策・堤防の建設。

### ウイグル

●ごく少数の学校では防災訓練をしているようですが(テレビで一度見たことがある)全国的ではありません。自分の学校では、し

たことはありません。家庭や企業でもしていません。

### 台湾

●地震、台風、干ばつ(南部)、土石流などがあります。防災訓練を行い、食糧・水・懐中電灯・ラジオなどを備えています。

### 韓国／ソウル・済州島

●済州島などは年1~2回台風が必ずと言って良い程通過します。  
●ソウルも時には台風が襲う事がありますが、政府がしっかり情報を流してくれ守ってくれます。

### ブラジル／サンパウロ

●規模の大きい地震はありません。私が住んでいたところでは、大雨、洪水、土砂崩れの心配はなかったため、とくに訓練はありませんでした。

### ペルー／リマ

●学校では避難訓練がありませんでした。現在はわかりません。防災の日に学校などに集まり、救急車や消防車がきて、傷ついたり倒れたり(フリ)した人の救助訓練をします。

## 日本の防災や東日本大震災について感じたこと

### 韓国

今回、日本での大災害を教訓に、国は建物の耐震化、災害に対する対応・訓練に力を入れています。韓国人が国外に出て大災害に遭ったときを考えての事です。(世界各地で仕事や旅行をする韓国人が増えています)。

### 台湾

日本は安全なところと見ていたのが今回の大災害はびっくりしました。

### ウズベキスタン

「防災」、「ボランティア」の言葉をよく聞くようになりました。自分の国では聞いたことはありません。周りの日本人は、地震への対策はしているようですが、放射能への対策は、どうしたらよいか分かりません。

### ペルー／リマ

3月11日はケイタイが使えなくなり不要だと思いました。電車も止まり、状況がわかりにくかったです。公共の場にはせめて何ヶ国かの言語で情報が欲しいです。ろうそく、電池など品切れになるものが多く驚きました。地震だけでなく放射能汚染も心配です。自分を守るのは自分。国だけでなく地球全部が大切です。

### ブラジル／サンパウロ

日本で3月にあった地震では、私は職場にいて、職場ではテレビがあったため、まわりの様子がすぐにわかりました。その日、電車が止まっていたため帰ることはできませんでした。心配がないことをブラジルに電話しても、つながりませんでした。翌日、妹からメールが届いていました。「大丈夫でしたか。何かあったらブラジルにもどってきて」と、

「母が心配している。無事な声を聞かないと落ち着かないから電話してあげてね」というメールでした。ブラジルではすぐに日本の情報が流れるため、一番口にしたのは「帰っておいで」でした。ブラジルでは災害訓練がないので、どうしていいかわからない。何年前、東海でおきた地震に日本にいるブラジル人たちは、みんなこわがって海に逃げたケースもありました。

町田国際交流の方が把握するアジア、アメリカなどでは、防災訓練という名目で行われることは無く、それぞれ、自分自身が、どうすればいいかと考えるだけ、防災ではなく、拳銃の使い方、消火器の使い方などはあるそうです。

また、日本の学校で防災頭巾があるということが、よく理解できなく、そのような物を頭にかぶるといことが、中々わかってもらえず説明が、大変でした。

## 初めて大地震に遭って

●その時、初めて「地震」という言葉を知りました。  
●なんで動いている(揺れている)のか分かりませんでした。  
●地震の後、火事になっているテレビの映像が不思議に見えました。

●水(海や川の水)だけでなく、大きな家や船が陸の方に流されているのに驚きました。  
●世界中から支援があったのに驚きました。  
●自分の国からも支援があったことを知り嬉しく思いました。

●自分の国が支援したことが載った記事が先生が皆に見せてくれたのが嬉しかったです。  
●生まれて初めて募金し、とても嬉しかったです。

# 「やさしい日本語」の定着に欠かせない 科学的な視点

森 篤嗣 (帝塚山大学)

寄稿



日本語の理解が十分でない外国人に対して情報提供をおこなう場合、二つの選択肢があります。一つは多言語化

です。英語や中国語、韓国語といった比較的読める人が多いと思われる言語に翻訳して情報を提供します。しかし、多言語化にはいくつかの問題点があります。お金も時間もかかるので日本社会全てが多言語化に対応してくれるわけではありませんし、最も大きな問題は主要な外国語を母語としない人にとっては、多言語化による恩恵は受けられないということです。

そこで、もう一つの選択肢である「やさしい日本語」ないしTNVNの提唱する「わかる日本語」を考えることとなります(これ以降は「やさしい日本語」で統一することとします)。「やさしい日本語」が一躍有名になったのは、阪神・淡路大震災がきっかけでした。阪神・淡路大震災では、地震が起きてからほぼ半日後に、ようやく英語での情報提供が始まりました。災害時には、即時性が重視されますので、翻訳に比べると時間がかからない「やさしい日本語」がそのニーズに沿うものとして広まりました。

そして、災害時に十分な威力を発揮した「やさしい日本語」は、平常時の言語サービスとしても注目されつつあります。外国人への言語サービスとして、恒常的な情報提供としての「やさしい日本語」を考える段階に入ったと言えます。

しかしながら、「やさしい日本語」が定着していくためには、どうしても欠かせない視点があります。それは「やさしい日本語」とは何か、誰に対して「やさしい」のかといった指標を科学的な視点から分析を進めることです。例えば、災害時における「やさしい日本語」の普及を推進した弘前大学人文学部社会言語学研究室のホームページに『「やさしい日本語」の作成ルール』が掲載されています。

どれも、「なるほど」と頷くルールではあるのですが、これらのルールをどの程度守ればいいのか、どのルールが「やさしい」と外国人に感じさせる要因になるのか、といったことがわかりません。

例えば「1文を短くして、分かち書きにし、文の構造を簡単にしてください」というルールがあります。「1文を短くする」といっても、何文字以内にすればいいのか、逆に言えば外国人にとって「やさしい」と感じさせるためには、何文字以内なら効果的なのかが知りたいところです。弘前大学のホームページでは、「1文の長さは24字程度、文節の数は10文節程度を目安にしてください」とあります。これはどの程度、「無理をしないといけない」長さなのでしょう。毎日新聞のサイトから、ある1週間分のインターネットニュースを調べてみると、1文の長さの平均は32.03字でした。一方で、同時期の毎日小学生新聞では29.26字でした。この二つのデータだけを見ると、24字という基準は妥当に感じられますが、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」を調べてみると、なんと26.21字でした。毎日小学生新聞より、「蜘蛛の糸」の方が「やさしい」というわけがありませんので、一文の長さにはばかり気を取られても「やさしい日本語」にはならないことがわかります。あくまで一文の長さは、「やさしい日本語」の数ある指標のうちの一つに過ぎず、これにどの程度こだわるべきかは検討の余地があります。

このように、「やさしい日本語」の基準や指標について考えるには、科学的な視点が不可欠です。何をどの程度重視することが、外国人の方々にとって「やさしい」と感じられることにつながるのか、データに基づいた科学的な視点で考えていかなければいけません。現在、一橋大学の庵功雄氏を代表とした科学研究費補助金による研究グループで、こうした視点からの「やさしい日本語」研究を進めています。成果にご期待ください。



## 中央区文化・国際交流振興協会 を紹介します。



日本語教室

### 世界に開かれたまちをめざす

今回私たちが訪れた中央区文化・国際交流振興協会は都心の中央区にあります。

中央区は銀座、日本橋、築地等の名に代表されるビジネス商業地域で、この10年間で、在住人口が1.5倍増加して11万7千人、外国人登録人口は2.8倍増の5千人(2011年1月1日現在)と大きく変化しています。

中央区文化・国際交流振興協会は、「中央区で生活する人々が主体的に、自由に、はつらつと文化活動や国際交流を進め、人間性豊かで、住みやすく、そして世界に開かれたまちにすること」を目的に設立され、本年20周年を迎えました。

東京日本語ボランティア・ネットワークとのつながりは、昨年秋(2010年)に東京都が開催した「在住外国人支援合同会議」への参加、同席が契機です。

### 中央区文化・国際交流 振興協会の事業内容

協会の事業は、文化振興事業(芸術・文化の普及)と国際交流振興事業(国際交流や日本語教室＝外国人への日本語学習支援)の二事業が、協会の両輪として進められています。

国際交流振興事業としては、

- ①国際交流のつどい／年1回
- ②ボランティア活動支援 ①日本語ボランティア ②国際交流サロンボランティア ③通訳・翻訳ボランティア等
- ③姉妹都市親善写真展
- ④日本語教室の開設 ①協会主催教室 ②協会支援教室
- ⑤国際交流サロン(月1回)
- ⑥日本語ボランティア講座(養成、フォローアップ、ステップアップの3講座)等、多彩な事業が行なわれています。

### 日本語教室と ボランティア養成講座の特徴

日本語教室は1998年に開設されましたが、人口増加の推移もあり、2006年より現在の3教室に、2009年よりボランティア主催による3教室が開設され、計6教室で学習支援を行っています。

外国人への学習支援(日本語教室)の特徴は、ボランティアの育成と教室開設の設定にあります。

### 高い競争率:ボランティアの養成

①本年2011年の日本語ボランティア養成講座の説明会には、30名定員の募集のところ100名近い希望者が参加し、うち半数近くが作文レポートを提出、高い競争率のなかでのボランティア養成となっています。

②日本語ボランティアの養成は、初めに養成講座20時間を経て、フォローアップ講座24時間、ステップアップ講座16時間へと進み、日本語学習支援に必要なきめ細かいプログラムが設定されています。

### 学習者参加のすそ野を広げる

協会主催の教室(3教室)について

は、学習支援の基本趣旨にのっとり、学習者を日本語初級レベルに限定し、日本語の基礎を十分理解できるようにと設定しています。

開設時間は、水曜日夜＝第1、第2、第3。木曜日午前＝第1、第2、第3。土曜日午前＝第2、第3、第4。初心者レベルの設定とあわせて、学習機会の選択肢を拡げています。

また木曜日午前の教室では、幼児と一緒に参加する保護者が安心して学習することができるように、保育対応を行っています。(応募者多数のときは抽選)

②ボランティアが開設・運営する自主教室(3教室)については、一定の要件を満たしている教室に対し、協会が助成金や後援名義使用等の支援をしています。

月曜日夜＝月3回、毎週火曜日午前、毎週土曜日午後。

### 日本語教室(学習支援)活動 から国際交流へ

こうした活動のうえに、日本語ボランティアによる意見交換会の開催をしたり、一大イベントである「国際交流のつどい」には、各教室のボランティアと学習者は、ブース展示等の参加を行い、国際交流を深める活動の展開を行っています。

(文責:岩佐、大木)



国際交流サロン (七ヶ)

ご存知でしょうか。難民には「帰国」という選択肢はありません。震災後も、私たちがそうであるように、情報を求めながら、これまでと同じ日々の暮らしを懸命に続けています。さぼうと21の学習支援室に勉強に通う皆さんに、それぞれの震災の経験や想いを綴ってもらいました。その一部をご報告します。(矢崎)

**Tさん** 50代・女性

自分の家にいました。おひるごはんを食べていたとき、きゅうにへやがうごきました。地震だと思いました。ゆれる時間が長かった。とてもこわかった。日本に来てからいちばん大きな地震です。しんぞうが止まるくらいあたままっしろになりました。へやの中の本だから本とものがぜんぶおちました。だいどころのれいぞうこのドアがあいて中のものが外へ出ました。

へやの中にいるのがしんぱいで外ににげました。どうろに人がいっぱいでした。あんぜんに時間を待って家にもどってきました。

へやぜんたいがめちゃくちゃでした。かたづけがたいへんでした。そのとき、しらないうちに泣いてしまいました。すぐ自分のおやのほう、ミャンマーへ帰りたいと思いました。

それからこわくて、こわくて、よるねむれないです。早くあんしんしたいです。

**Hさん** 20代・男性／一部抜粋

**[3月10日]** 今日僕23歳になります。そうです。今日僕の誕生日だ。365日間の中でもっとも大事な日なのでたくさん楽しんで、とてもステキなプレゼントをもらった。

**[3月11日]** 朝早起きして、シャワー浴びてとてもいい気分です。仕事場に向かった。僕飲食店で働いているのでふだんホールの仕事をしているが2時くらいすこしヒマだったのでキッチンの人に手伝って野菜を洗っていた。その時大学どうしようかとか休みの日どこ行こうか、休憩に何食べようかなとかいろいろ考えて、まわり何が起こっているかぜんぜん気付かなかった。いきなり「危ないから出てって」という声を聞いて、まわりをみたらカベとか電気とか全部動いて、みんな店の外に出た。僕も思わず外に出た。

地震の後店の中に戻ったら、僕水道をしめてなかったおかげでキッチンの中にプールができていた。

その日僕家に帰れなくて、次の日昼間まで店で待っていた。次の日家に帰ってテレビをみたら悲しいニュースでいっぱいとても忘れられない日だった。

この大地震で僕と僕の家族は無事だったんだけど、まだまだ自分の家族をみつかることができない人とか薬、食べ物、飲み物不足で苦しんでいる人々がたくさんいる。

23才最初の日とっても悲しい日になったが僕にとってとてもいい勉強にもなった。それは人間1分後何が起こるかかわからないから人生のすべてを、1分1分大事にしていこうと思った。

1日でも早く日本、僕の二番目の国に元の感じ戻るように祈ってる。

**Jさん** 50代・男性／一部抜粋

かべにある えと つうきこうのふたがおちました。「Jさん、つくえの下に入って、入ってください」と、ともだちが言いました。まえにあるつくえの下に入りました。

となりにある まどから そとにとばされるようにかんじました。かべからもおとが出ていました。油かんを足でふんでいるようなおとでした。

今回ぜったい死んだと思いました。母さん、きょうだい、せんせいを思いました。

ぐんじせいけんへ、はんたいすること、みんしゅかすることをさいごまでやらないで、このまま死ぬのかと思ってくやしかったです。

もう、しょうがない、死ぬ前にぜんぶをみてから死んだほうがいいのかと思って、つくえの下から出て、ホールのところに行きました。店長がれいぞうこをおしたり、いたちょうが店の前にかんばんをおさえたりしました。

日本でニュースをすぐほうそうしています。NGOもたくさんあります。日本せいふもけいけんがあるので、何でもできるとしんじています。

仙台のみなさん、あなただけではありません。みなさんといっしょに私たちと世界中のみんながまもっています。がんばってください。えがおでたのいい日がくるように、いのっています。

■日本語による日本語指導こそが会話能力の向上に

# 日本語サークル「えがお」 (墨田区)

代表 神田 喜一

皆さん、こんにちは。私達、日本語サークル「えがお」は、昨年10月、今話題の中心、東京スカイツリーのお膝元、墨田区業平で産声をあげました。開室主旨は日本語で日常会話の出来ない、困窮度の高い、初級者を対象と考え、在住外国人支援を目指しています。スタッフ全員が墨田区主催の日本語ボランティア養成講座の終了者で、女性中心の構成になっています。また、私達の教室では入会時に、外国人学習者の学習希望をアンケートしていますが、日本語で日常生活が送れる様になりたいと言う回答が圧倒的です。そこで兎角見逃されがちで素朴な疑問に遭遇することになりました。日本語ボランティア教室では、

なぜ日本語で日本語を指導するのかと言う事です。

日本の中学、高校では日本人の先生が日本語で英語を授業しています。日本語教室での媒介語の使用は禁止なのでしょうか?そこで、その答を得る為、文部科学省国際教育課に問い合わせてみました。分かった事は、学校での英語教育が僅かずつではあるが、読み、書き、文法からコミュニケーション能力の向上に移行し始めたと言う事です。(ex.小学校での文字を使わない英語指導・高校における英語による英語指導 等)つまり従来の英語教育が読み、書き、に大きく片寄った物であった事がわかる訳です。日本語教室の日本



語による日本語指導こそが会話能力の向上に適切な方法である事がわかります。では日本語による日本語の読み、書き、文法の指導はどのような評価になるのでしょうか? 先輩諸氏の御教導賜らん事を!

終りに「えがお」発足に当り、隣接する本所賀川記念館日本語教室スタッフの皆さんのご支援に心から感謝申し上げます。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

平成20年度東大和市国際交流事業の「日本語ボランティア養成講座」を2008年10月に修了したボランティアが集まり、2009年2月1日に“あつまれ日本語ひろば”を発足させました。東大和市内にお住まいの外国籍市民は、近隣市に比較すると多くはなく、平成21年1月末現在約1,020人、人口の約1.2%でした。東大和市内で4つめの日本語ボランティア団体設立でしたが、学習者が集まるかどうかの不安を抱えながら、他の3教室は十数年のベテラン教室ですので先輩教室からの支援をたよりにしての出発でした。

ボランティア6名~9名の出席に対して、学習者についても、幸いにも、発足後2か月の4月頃から集まり始め最盛期登録人数は12~13名となり常時8~9名出席者

## nice to meet you

■新人です!!! よろしくお願ひ致します。

# あつまれ日本語ひろば (東大和市)

代表 竜口 伊壯

の日は続きました。一時はグループ学習を検討するほどでした。ただし、ボランティア登録延べ人数21名に対して学習者登録延べ人数70名に見られるように、学習者の生活が安定していないためか、学習者の出入りが激しく学習者の定着率が非常に低いという悩みを抱えています。

外国籍の方々が、地域で暮らしていく上で苦勞するのが、日本語習得や文化の違い、生活情報の収集などですが、更に就業にも苦勞されているようです。これらの困難に加えて、3.11の大震災および福島原発事故により、外国籍市民の方々の母国一斉引き揚げがあったようで学習者の出席が1~3名の日が続いておりボランティアの志気が上がらない毎日です。早く3.11以前に回復することを願ひながら学習を続

けています。先輩教室のご指導ご鞭撻の程をよろしくお願ひいたします。





学習者の声

だんだん

Doyle・カール / アイルランド  
日本語を話しましょう (目黒区)

私が日本に来てから経験したこと、また、日本語ボランティアの方々がいかに私の世界を広げてくれたか、簡単にまとめてみましたので、この機会に皆様と共有させていただきたいと思っております。

私は1年程前、日本人の妻とともに日本に移住しました。彼女を通し、日本の文化に慣れ親しんでいるつもりでございましたが、毎週こちらの日本語ボランティアで開催される日本語クラスで学んだことは、私にとって新しい発見が多く、また実生活に非常に重要なことばかりで、心から感謝しております。日本語を学びながら、先生や生徒との間に育まれた友情は、私が日本で生活する上での「命綱」といって過言ではありません。

日本語での日本文化をもつ方々に対する私のコミュニケーションスキルを向上させてくれようとする、先生方の我慢強く熱心なご指導のおかげで、毎日少しずつ語学や文化、あるいは物事の考え方に理解が深まるのを実感しており、将来の目標を達成するのに非常に有効な教えと感じております。

先日の東北地方を中心とした地震と津波は

大変つらい出来事でした。この災害で破壊的被害を受けた地域を訪れ、お互いに助け合うこと、文化の違いを理解しあいながら、一人間として関わりあって生活していくことの大切さを再認識したように思います。

また、東京での被害はそれほどではありませんでしたが、この地震以降、私の周りのコミュニティとのつながりをより強く感じましたし、今後もこの前向きな姿勢をお互いの努力で維持していきたいと感じました。

日本人のように日本語を話すことは決して簡単ではありませんし、おそらく私には無理なのかもしれません。しかし、笑顔を交わしあい、日々の素敵な出来事を共有しコミュニケーションをとることは、十分可能です。レッスンが進むにつれ、私の新しい故郷で、私のまだ知らない隠れた財宝を見つけ、新しい経験に遭遇し学んでいく毎日を心から楽しみに生活しています。



ボランティアの声

「また来週！」で23年

西村和子 / 日本語を話しましょう (目黒区)

「日本語を話しましょう」は、NHKから講師を迎えて行われた目黒区の講座が終了した1989年に自主グループとして発足し、今年で23年目になります。

当初、在日外国人が日本人と共に日本語を話して相互理解を深め楽しい日本生活を送れるようにとの趣旨で、会員はほとんどが外国人の夫人でした。しかし、外国からの研修生が貴重な休日に学習に来るようになり、目黒区にも国際交流協会ができたことから、会のあり方も学習中心へと変化し、ニーズに応じていくうちに現在の形になっていきました。そして日本人ボランティアの自覚も「しっかりと指導しなければ」と変わって行きました。

これまでの会員は既に50カ国を超え、現在シラレオネ出身者やアイルランド人等が勉強していますが、会員の国を世界地図で探し興味を持ち理解を深めていけることも日本語ボランティアの楽しさの一つでしょう。3月の大震災直後も熱心な会員は教室に来て勉強していましたが、3ヶ月経ちクラスはやっと元の落ち着きを取り戻しました。

帰国した会員からも、「大丈夫ですか?」とお見舞いのメールや電話が届きました。10数年前の会員が来日の度にクラスに会いに来てくれることもあり、「ずっとこの会を続けられたら」と思います。

活動が長くなるにつれて日本人会員の平均年齢が上がり、外国人会員はどんどん若くなり、会の存続を心配することもありましたが、最近若い日本人会員の入会もあり心強く感じています。

時には着付けや料理教室など特別行事を楽しみながら、いつまでも皆が楽しく学習できるクラスでありたいと願っています。





## 「わかる日本語」研究会

参加者募集!!

「わかる日本語」研究会と一緒に考えませんか。参加を歓迎します。

研究会の活動はTNVN Network News 73, 74 で紹介していますのでご覧下さい。

TNVNのホームページ( <http://www.tnvn.jp/> )からバックナンバーをご覧できます。

研究会は8月2日で9回を重ねました。東京ボランティア市民活動センター(飯田橋)のロビーで毎月第一金曜日午後6時から8時頃までです。

メンバーは日本語ボランティア教室で活動中の方が中心ですが、日本語教師も居られ、会は和気藹々とした雰囲気です。8月からは大学院生(「やさしい日本語」をテーマに研究)にも加わっていただきました。さらに、実践的な情報を発信する部門からの参加を願っています。

現在、研究会で取り上げているテーマは、自治体等のホームページに掲載されている「生活ガイド」の日本語(原文)を“日本語を母語としない人が「わかる日本語」文にする”ことです。検討中の日本語(原文)は東京都国際交流委員会の了解を得て、HPの「外国人のための生活ガイド」の

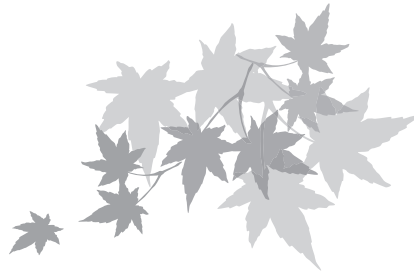
一部を取り上げています。

検討を通して改めて日本語の問題点が浮き彫りにされています。

また、日本語が十分でない外国人に情報を読んで、分かって貰える「わかる日本語」にする難しさを痛感しています。

教室などで外国人と一緒に文を読むときは言葉の意味を説明して分かって貰っても、一人で読むときは難しい文・単語が多いのです。

情報を読んで理解してもらいたい人の日本語レベルはどのくらいに置いたらよいのでしょうか。



## 出前講座

新宿未来創造財団の依頼によりTNVNが企画、講師派遣をした「日本語ボランティア研修講座」が7月21日から8月24日まで計10回、新宿文化センターで開かれました。この講座の魅力は、1回でも参加できること、日本語教師で日本

語ボランティア活動に深く係わる講師たちとそれぞれのユニークな1回完結型ワークショップ、どこで活動する日本語ボランティアも参加できること等で、毎回、猛暑を吹き飛ばす熱い話し合いになりました。(R・H)

## Column

### ❖ 一つの教材

朝日新聞の生活欄に掲載されている「ひととき」「男のひととき」を教材として使用しています。

これは読者からの記事で、日常生活で出会う事柄や考え・感じたこと等で生活に密着した内容です。

外国の方々にも知って貰いたい、感じて貰いたいことなどが、日常使われる言葉で書かれています。

読み合わせは表題から本文に移り最後の住所・名前まで、その中で漢字の読みと意味、語句の意味、そして内容についての印象・考え等を話し合っています。

いつもの様にこの欄に目を通していると“好きな日本で生活してみよう”と題して韓国の大学

生の記事がありました。彼は「ひととき」の読み合わせをした人たちの一人です。

書き出しは「日本の文化や日本語が好きで、韓国の大学を休学し、今年2月から日本へ行った。9月まで日本語学校に通い、その後は新宿の日本語ボランティア教室で勉強した。教材は、この「男のひととき」や「ひととき」だった。他の記事よりわかりやすく、日本人の生活を見ることができた。(中略)韓国と日本には関係が悪い時代があったが、日本で生活してみて、人間と人間の付き合いに国は関係ないと感じた。

日本人から受けた恩恵を思い出しながら、いま韓国で勉強している日本の留学生と友達になって、いろんなことを教えてあげたいと思っている」と結んでありました。(K)

TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

## 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

- 第1、第3 金曜日／午後2時～4時
- 第2、第4 金曜日／午後2時～6時
- 第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

◎正会員

日本語ボランティア「たけのつか」

(足立区)

●会員数(2011年8月10日現在)

正会員：88団体、団体協力会員：2団体

個人協力会員：26名、賛助会員：4団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井芳野

●レイアウト／鶴田 環恵